

文の京ゆかりの文化人顕彰事業 関連事業案内・参加者募集

●文化資源担当室（文京ふるさと歴史館）

朗読コンテスト（主催：文京区 主管：跡見学園女子大学）

日 時：令和7年11月2日（日）13時～16時
会 場：跡見学園女子大学プロッサムホール（東京都文京区大塚1-5-2）
課題作：小泉八雲、徳富蘆花、夏目漱石の作品
出場者募集は終了しました。観覧者募集の詳細は区報・ホームページ等でお知らせします。

問合せ 跡見学園女子大学文京キャンパス事務局 朗読コンテスト係
[E-mail] roudoku@atomi.jp

出張パネル展示「近代の女子高等教育と文京（仮）」

文京区が、日本における近代的女子高等教育の発祥の地であること、お茶の水女子大学や跡見学園女子大学、日本女子大学など、これまで多くの女子高等教育機関が区内に所在したことなどを紹介します。

会 期：令和8年2月17日（火）～2月23日（月・祝）
会 場：文京シビックセンター 1階展示室2（アートサロン）10時～18時
入場料：無料

●元町小学校歴史展示室（元町ウェルネスパーク）

令和7年4月1日、旧元町小学校跡に建てられた複合施設・元町ウェルネスパーク内に展示室を開室しました。展示室は関東大震災を機に移転・建設した当時の教室を復原しています。小学校の解体時に収集した建築部材の一部や模型を展示するとともに、アーカイブとして校舎各部の解説や建築部材、旧校歴室に残る卒業証書・卒業生の紹介等を取めています。なお、著名な卒業生には高村象平氏（経済学者・慶應義塾大学塾長）や平出修氏（弁護士・文人）の長男・禾氏（最高裁検事・翻訳家）、矢崎節夫氏（童謡詩人）がいます。

問合せ 〒113-0033 東京都文京区本郷1-1-19
元町ウェルネスパーク東館3階
TEL 03-5654-5715（代表）
開室時間：9時～17時
休 室 日：年末年始、その他施設点検日
見 学 料：無料



展示室内

●文京区アカデミー推進課観光担当

文の京ガイドツアー

●令和7年11月23日（日）テーマ：樋口一葉 ●令和7年12月14日（日）テーマ：夏目漱石
事前募集、抽選制です。詳細は区報・ホームページ等でお知らせします。

問合せ アカデミー推進課観光担当
〒112-8555 東京都文京区春日1-16-21 TEL 03-5803-1174

●（公財）文京アカデミー・アカデミー文京

特別公開講座（11月）・文京アカデミア講座（2～3月）

交流自治体や本区に縁のある人物・事象等に関する講演会・講座の開催を予定しています。財団広報誌「スクエア」、区報・ホームページ等でお知らせします。

問合せ （公財）文京アカデミー・アカデミー文京 学習推進係
〒112-0003 東京都文京区春日1-16-21 TEL 03-5803-1119

令和7年度 文の京ゆかりの文化人顕彰事業

令和7年（2025）9月19日発行

編集・発行：文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

文化資源担当室（文京ふるさと歴史館）

〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-29 TEL 03-3818-7221

https://www.city.bunkyo.lg.jp/rekishikan/index.html

印刷物番号 D0125010



文の京ゆかりの文化人顕彰事業 関連事業案内

●文京区立森鷗外記念館

コレクション展「小説『舞姫』をよんでみよう!」

教科書で一度は読んだことがある人も多い小説『舞姫』。その作品世界を紹介します。

会 期：開催中～令和7年9月30日（火）
休館日：9/24・25
観覧料：300円（20人以上の団体240円）

宮内庁宮内公文書館・文京区立森鷗外記念館共催

特別展「鷗外、最後の4年間―帝室博物館総長兼図書頭・森林太郎」

帝室博物館総長兼図書頭としての足跡を、宮内庁宮内公文書館が所蔵する宮内省の公文書類と、文京区立森鷗外記念館が所蔵する原稿・書簡・遺品などから紹介します。

会 期：令和7年10月11日（土）～令和8年1月12日（月・祝）

休館日：11/25、12/22・23、12/29～1/3

観覧料：600円（20人以上の団体480円）

※11/1の開館記念日は、展覧会観覧者全員にポストカードをプレゼント。



森林太郎辞令
宮内庁
宮内公文書館蔵

大正6年12月、鷗外が帝室博物館総長兼図書頭に任じられた際の人事記録



鷗外筆杏奴宛葉書
大正7年11月5日
文京区立
森鷗外記念館蔵

出張先の奈良から次女に送った葉書

コレクション展「鷗外の子もたち（仮）」

個性豊かに育った4人の子もたちが書き残したものをとおして、父親としての鷗外の姿を紹介します。

会 期：令和8年1月18日（日）～3月31日（火）予定

休館日：1/26・27、2/24～26、3/23・24

観覧料：300円（20人以上の団体240円）

※1/19の鷗外誕生日は無料観覧日です。



鷗外の子もたち（「婦人之友」28巻3号 昭和9年3月より）
右から長男・於菟（前列）、長女・茉莉（後列）、次女・杏奴、三男・類

問合せ 文京区立森鷗外記念館 〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4
TEL 03-3824-5511 https://morigai-kinenkan.jp
開館時間：10時～18時（最終入館17時30分）
※中学生以下、障害者手帳提示の方と介護者1人は観覧料無料

※ふるさと歴史館・森鷗外記念館 相互割引のお知らせ（入館1回につき1回限り）

●歴史館入館券、友の会会員証、歴史館パンフレット（押印あり）提示

→ 森鷗外記念館観覧料が2割引

●森鷗外記念館入館券、鷗外バス提示 → 歴史館の入館料が団体料金適用

【令和7年度】



熊本県、熊本市、新宿区とのつながり

熊本藩主細川家下屋敷の庭園跡地に区立肥後細川庭園があることからゆかりある熊本県、夏目漱石と小泉八雲が居を構え教鞭をとっていた熊本市、漱石の生地であり八雲の終焉の地である新宿区と4自治体で肥後細川庭園を舞台にしたイベントなど、多様な連携を行っています。

山梨県甲州市とのつながり

樋口一葉の両親が生まれ育った甲州市と一葉終焉の地で関連史跡のある文京区は、旧塩山市時代の平成16年に文化事業協定を結び、平成27年に改めて相互協力協定を締結し、文京朝顔・ほおずき市への出展など交流を行っています。

令和7年に記念の年を迎える主なゆかりの文化人

岩崎久彌 ――― 実業家[1865-1955] 生誕160年 没後 70年

大塚楠緒子 ――― 歌人、小説家[1875-1910] 生誕150年

大町桂月 ――― 詩人、評論家[1869-1925] 没後100年

北原白秋 ――― 歌人、童謡作家[1885-1942] 生誕140年

木下空太郎 ――― 詩人、劇作家、医学者[1885-1945] 生誕140年 没後 80年

相馬黒光 ――― 実業家、随筆家[1876-1955] 没後 70年

田口卯吉 ――― 歴史家、経済学者、実業家[1855-1905] 生誕170年 没後120年

玉川一郎 ――― 小説家[1905-1978] 生誕120年

坪内逍遙 ――― 小説家、劇作家[1859-1935] 没後 90年

豊島与志雄 ――― 小説家、翻訳者[1890-1955] 没後 70年

中勘助 ――― 小説家、詩人[1885-1965] 生誕140年 没後 60年

福澤諭吉 ――― 思想家、教育者[1835-1901] 生誕190年

宝生英雄 ――― 能楽師[1920-1995] 没後 30年

野上弥生子 ――― 小説家[1885-1985] 生誕140年 没後 40年

前島密 ――― 官吏、実業家[1835-1919] 生誕190年

三島由紀夫 ――― 小説家、劇作家[1925-1970] 生誕100年

棟方志功 ――― 板画家[1903-1975] 没後 50年

村川堅固 ――― 西洋史学者[1875-1946] 生誕150年

森下雨村 ――― 編集者、翻訳者[1890-1965] 没後 60年

山田耕筈 ――― 作曲家、指揮者[1886-1965] 没後 60年



夏目漱石



小泉八雲



樋口一葉



大塚楠緒子



江戸・牛込馬場下横町（現・新宿区喜久井町）生まれ。本名・金之助。帝国大学（現・東京大学）卒、明治 28 年（1895）からは愛媛県尋常中学校（後の愛媛県松山中学校）で教員を、明治 29 年からは熊本の第五高等学校で講師を務めます。明治 33～35 年には英国に留学、帰国後、第一高等学校・東京帝国大学の講師も務めます。

明治 38 年に発表された『吾輩は猫である』が好評を得て、その後、作家活動を本格化させ、同書とともに文京を舞台とする『三四郎』、『それから』などの作品や、『坊っちゃん』、『草枕』、『こころ』、『明暗』ほか現在も読み継がれる多くの名作を生み出しました。

また熊本第五高等学校時代の教え子・寺田寅彦（1878-1935）をはじめ、森田草平（1881-1949）、鈴木三重吉（1882-1936）、小宮豊隆（1884-1966）、中勘助（1885-1965）、内田百閒（1889-1971）、久米正雄（1891-1952）、芥川龍之介（1892-1927）ほか、区ゆかりとなる文化人や、そのほか多くの後進の育成に力をそそぎました。

文京区域では白山御殿町（現・白山3）をはじめ、小石川表町（現・小石川3）、駒込千駄木町（現・向丘2）、駒込西片町（現・西片1）などに暮らしました。駒込千駄木町の家は、そこで執筆された『吾輩は猫である』にちなみ、後に通称「猫の家」と称されます（漱石以前に森鷗外も暮らしたその「猫の家」は現在、博物館明治村（愛知県犬山市）に移築されています）。

終焉の地、早稲田南町（現・新宿区早稲田）には、現在、新宿区立漱石山房記念館が設立・運営されています。



『吾輩ハ猫デアル』（文京ふるさと歴史館蔵） ＊常設展示はしていません。



ラフカディオ・ハーンはギリシャ・レフカダ島生まれのイギリス人で、様々な職を経て渡米し新聞記者となりました。明治 23 年（1890）、英訳『古事記』などの影響を受けて来日し、英語教師として島根県尋常中学校に赴任しました。この頃、元士族の娘・小泉セツと結婚しました。熊本第五高等学校の教師や英字新聞の神戸クロニクル社の記者を経て、明治 29 年、日本に帰化し小泉八雲と名乗りました。同年、帝国大学文科大学長・外山正一に招聘され帝大で英文学科の講師になりました。明治 36 年 3 月、帝大を解雇され、翌年、早稲田大学で講師となりますが 9 月 26 日心臓発作のため自宅（現・新宿区大久保）で逝去しました。

文筆活動としては、翻訳・紀行文・再話文学を中心に約 30 の著作を遺し、代表的著作に『怪談』（「耳なし芳一」「雪女」など収録）、研究書『知られぬ日本の面影』、随筆『心』などがあります。

文京区域では、帝大勤務となった際に赤門前の旅館三好屋*（現・本郷 5）や本郷龍岡町 24 番地（現・湯島 4）の龍岡楼*に一時的に逗留していたこと、また、お昼休みに真砂町 10 番地（現・本郷 4）の西洋料理店弥生亭*で食事したことなどがあります。*いずれも現存せず



明治 5 年（1872）、第二大区一小区内幸町（現・千代田区）の東京府官舎で生まれ、本郷区菊坂町（現・本郷 4）、丸山福山町（現・西片 1）などに住んだ樋口一葉は、明治 9 年から 5 年間、家族で本郷区本郷 6 丁目（現・本郷 3）の法真寺隣に住みました。母屋に加えて、倉庫、物置 2 棟を備えたこの家での生活は、樋口家の“最も幸せな時期”とも称されています。一葉は、後にこの家を「桜木のやど」と呼んで、少女時代の景色を懐かしんでいます。

一葉の両親は、共に甲斐国山梨郡中萩原（現・山梨県甲州市）の出身であり、一葉自身はその土地を訪れたことはないと言われていますが、一葉の作品には両親の故郷がたびたび登場します。「ゆく雲」（初出は『太陽』1 巻 5 号、博文館、明治 28 年）では、山梨出身の主人公が住む下宿は「桜木のやど」がモデルとされ、法真寺境内の腰衣観音と思われる「腰ごろもの観音さま」も登場します。

一葉終焉の地となった丸山福山町の家に住み、「ゆく雲」の執筆時期を含む「大つごもり」、「たけくらべ」などの傑作を発表した明治 27 年 12 月から 29 年 1 月までの期間は、“奇蹟の十四か月”とも呼ばれています。



明治 8 年（1875）、麹町区一番町（現・千代田区）で生まれ、子どもの頃から読書を好み、明治 22 年に東京高等女学校に入学しました。この学校は、翌年女子高等師範学校附属高等女学校となり本郷区湯島 3 丁目（現・湯島 1）に移転、楠緒子は明治 26 年に主席で卒業したと伝えられています。明治 28 年に夏目漱石の友人で美学者の小屋保治（1868-1931）を婿に迎え、後に本郷区西片町（現・西片 2）に住みました。

明治 27 年、『婦女雑誌』に発表した「応募兵」で注目され、明治 28 年 12 月発行の『文芸倶楽部 閨秀小説号』では、樋口一葉、小金井喜美子などと並んで、「暮ゆく秋」を発表しています。また明治 23 年に歌人佐々木弘綱に入門し、弘綱、信綱親子に師事しました。信綱が主宰する竹柏会の雑誌『こころの花』にも、多くの作品を発表しています。

楠緒子の作品には、生活の場とした文京区内を舞台にしたものが多く見られ、中には西片町のシンボルである大椎の木を詠った「椎の木」などがあります。

「西片町の椎の木といへば、車夫知り、按摩も猶そをあてにて杖にて能くつき迷ふことあらじ、蔓る木蔭は十数坪にわたりて、春は幾つとなく、乳母車此下へ集へば（後略）」（『心の華』9 巻 1 号、明治 38 年）

文の京ゆかりの文化人関連施設	
公開時間や休館日などは、それぞれの施設にお問い合わせください。	
夏目漱石	■新宿区立漱石山房記念館 東京都新宿区早稲田南町7 TEL 03-3205-0209 ■夏目漱石大江旧居 熊本県熊本市中央区水前寺公園21-16 TEL 096-385-2266 ■夏目漱石内坪井旧居 熊本県熊本市中央区内坪井町4-22 TEL 096-325-9127
小泉八雲	■小泉八雲記念館 島根県松江市奥谷町322 TEL 0852-21-2147 ■小泉八雲旧居 島根県松江市北堀町315 TEL 0852-21-2147（小泉八雲記念館） ■焼津小泉八雲記念館 静岡県焼津市三ヶ名1550（焼津市文化センター内） TEL 054-620-0022 ■小泉八雲熊本旧居 熊本県熊本市中央区安政町2-6 TEL 096-354-7842
樋口一葉	■旧伊勢屋質店（菊坂跡見塾） 東京都文京区本郷5-9-4 管理者連絡先：跡見学園女子大学 TEL 03-3941-7420 ■台東区立一葉記念館 東京都台東区竜泉3-18-4 TEL 03-3873-0004